



国指定記念イベントリハーサルでの、雅楽師 東儀秀樹氏と久山の子どもたち

### 3

首羅山遺跡に寄せるみんなの想い・夢

## 3 首羅山遺跡に寄せるみんなの想い・夢

### 3-1 これまでの取り組み

首羅山遺跡は、地域の伝承の中にあった首羅山の遺跡を知りたいという町民の声によって調査がはじまり、全く無名だった遺跡が、調査開始からわずか8年で国史跡に指定されました。指定前からの町民や学校の取り組みと、研究者の熱心な調査が一体となって、地域の想い・夢を膨らませてきたことが大きな力となりました。

#### (1) 町民の活動

##### 発掘調査

首羅山遺跡の調査は、地域の方の協力を得て竹を伐採するところからスタートしました。発掘調査や伐採にも、多くの地域の方が参加し、歴史が解明される面白さを共有しています。

##### 自主的な勉強会

町の歴史講座への参加者から自発的な勉強会「久山町歴史文化勉強会」が発足しました。現在、町のボランティア団体である「ボランティア連絡協議会」と連携した活動を行っています。月に1度の勉強会や、見学会の準備・案内、町の文化財めぐりの主催など、普及の中心となっています。近年では勉強会の成果をまとめた冊子をつくり、各学校や図書館に配布し、子どもたちの調べ学習にも役立っています。

##### 太鼓劇の創作、演奏

町の太鼓グループが首羅山の開山伝承から、太鼓劇を創作、演奏しています。

##### 首羅山遺跡見学会でのおもてなし

首羅山遺跡見学会にあわせて地元上久原地区が猪汁を用意しふるまったり、コスモスの植栽、かかし展示などの取り組みが広がっています。

##### 山の整備

首羅山遺跡の北側の麓では、猪野地区の住民が、桜山の手入れや階段整備、さくら祭りの開催などの魅力づくりに取り組んでいます。



竹の伐採



発掘調査



自主的な勉強会



町の太鼓グループによる「首羅山開山伝承」



ボランティアガイド



見学会でのコスモスのおもてなし



首羅山遺跡見学会



見学会で猪汁をふるまう地元上久原地区の方々

## (2) 久原小学校・山田小学校による歴史学習「わたしたちの首羅山遺跡」

総合的な学習「わたしたちの首羅山遺跡」を中心に、首羅山遺跡を教材に、単なる歴史学習に終わらず、小学生の地域を愛する心の育成を目指した取り組みが行われています。平成20年度からは発掘調査の進展に合わせて、深化した学習内容が行われているのが特徴です。

学習成果は「首羅山サミット」や国史跡指定記念イベントで発表しました。このような取り組みによって、遺跡の重要性やこれからの遺跡への夢を多くの町民に伝える役割を果たしました。

### 歴史学習「わたしたちの首羅山遺跡」の歩み

平成20年度	<p>○6年生希望者による一般見学会への参加</p> <p>首羅山遺跡を題材とする授業をカリキュラム化する以前、一般向けの現地見学会に希望者の6年生が参加。</p>
平成21年度	<p>○久原小学校6年生 首羅山遺跡授業開始</p> <p>久原小学校6年生が初めての現地での遺跡授業。卒業制作「私たちの首羅山遺跡」の壁画制作。</p>
平成22年度	<p>○出土瓦拓本制作</p> <p>新たな活動として、本谷地区から出土した瓦の拓本を制作。卒業制作のステンドグラスに首羅山遺跡の様子が盛り込まれた。</p>
平成23年度	<p>○西谷地区見学開始・ステンドグラス制作</p> <p>総合的な学習の中で「わたしたちの首羅山遺跡」を開始。年間30時間の学習を行い、地域ボランティアや調査担当者を交えた学習を進めた。</p>
平成24年度	<p>○山田・久原合同学習開始、「首羅山サミット」開催</p> <p>2校の6年生が合同で首羅山に登り授業を行った。年度内に国史跡指定が決まったことから企画した「首羅山サミット」には、町民を招いてシンポジウムと各学校の発表を行い、首羅山への夢を語った。</p>
平成25年度	<p>○映画「私たちの首羅山遺跡」制作</p> <p>子どもたちの映像を多く取り入れた国史跡指定を記念した映画を制作。ナレーションも子どもたちが担当。上映会では町民600人（全人口の8%）を動員した。</p> <p>○国史跡指定記念イベント「首羅山遺跡の現在と未来」開催</p> <p>東儀秀樹さんを迎えたイベントを開催し、久原小学校が作った合唱曲「首羅山いつまでも」を小中学校の全員で合唱した。町民2,000人（全人口の25%）を動員した。</p>



首羅山での授業



首羅山遺跡の学習



首羅山の清掃



首羅山サミット



久原小学校で東儀秀樹さんを迎える子どもたち



東儀秀樹さんに卒業制作の発表



久原小学校卒業制作

### (3) 研究者(首羅山遺跡調査指導委員会)との連携

首羅山遺跡は、文献資料もほとんどない全く未知の遺跡でした。そこで、調査開始の段階から各分野の研究者を中心とした首羅山遺跡調査指導委員会を立ち上げ、最初からともに調査に携わっていただき、一緒に山中の藪を歩き、首羅山の解明に取り組んでいただきました。委員会を通じて山の研究を行っている研究会や研究者と積極的に情報交換を行い、全国的な視野を持って調査を進めることにもつながっています。



指導委員会によるパネルディスカッション

### (4) 福岡県(九州歴史資料館)との共同調査

平成20年度から平成24年度まで九州歴史資料館との共同調査を行いました。九州歴史資料館が長年積み上げてきた知識と経験を生かして、より効果的な発掘調査を遂行することができました。

また調査の関わりがきっかけの一つとなり、九州歴史資料館に事務局を置く「九州山岳霊場遺跡研究会」が発足し、山林寺院に関する研究や保存活動が広がりつつあります。



現地見学会(九州歴史資料館職員による説明)

### (5) 情報の発信

平成25年10月5日、首羅山が国史跡に指定されたことを記念したイベント「国史跡 首羅山遺跡の現在と未来」を開催しました。

また、調査が進む首羅山遺跡の様子を記録した映像を、動画シリーズ「首羅山遺跡は「今」」として町のホームページで公開しています。久山町長が自ら遺跡を語る映像もあります。また、史跡指定を記念した映画「私たちの首羅山遺跡」を制作し上映会を開催しました。



国史跡指定記念イベント「国史跡 首羅山遺跡の現在と未来」



約600人の町民が参加した映画上映会



## 3-2 首羅山遺跡に寄せるみんなの想い・夢

調査の進行にあわせ、町民、学校、研究者、県との連携や情報の共有を積み重ねる中で、みんなの先人への感謝や誇りなどの想いや、首羅山についてもっと知りたい、首羅山がもっと有名になって欲しい、首羅山を守り伝えるために何かしたいという夢が大きくなっています。

首羅山遺跡国史跡記念イベントシンポジウムより

### 「感謝の気持ちが湧いてくる」 (久山中, 女子)

遺跡全体の美しさを実感したのは勿論ですが遺跡の保全活動に多くの方々が参加していることをそのときに知りました。小学校の頃から何度も登っている首羅山が多くの方々から守られていると思うと自然と感謝の気持ちが湧いてきます。

### 「誰でも気軽に何度でも来てもらえる町にしたい」 (久原小, 女子)

誰でも気軽に何度でも来てもらえるような町にしたいです。そのためには首羅山遺跡をはじめとする、久山の良さをアピールする場所が必要だと思います。歴史を学べて、自然の中で遊べて、地域の新鮮なものが売っているような博物館と物産館と自然公園が合体したような場所がほしいと思います。

### 「人と自然が日常的に関わる」 (久山町歴史文化勉強会, 男性)

首羅山は「すらのやね」と呼ばれて親しまれてきたように、ごく最近まで里山として自然と人とが日常的に係りを持ってきました。そういう先祖の知恵に学んで、歴史・遺跡・里山・自然・信仰・公園と、日常生活の中でかかわりを持って、親しまれるような遺跡であってほしいと思います。

### 「目に見える史跡も目に見えない文化も受け継ぐ」 (久原小, 女子)

本物に触れることができ、感動しました。学習を通して、首羅山遺跡の価値を知ったからにはしっかりと目に見える史跡も大切にしていかなければならないし、目に見えない文化も受け継いでいかなければいけないと思っています。

### 「全国的に有名になってほしい」 (久原小, 男子)

首羅山遺跡へのぼくの夢は全国的にも有名になってほしいということです。首羅山遺跡と聞けば全国どこの人でも福岡県久山町の遺跡と分かってほしいです。首羅山と聞けば薩摩塔のあの美しい姿を思い浮かべてほしいと思っています。

### 「ぼく達の夢は首羅山で国や文化を越えた交流をすること」 (久山中, 男子)

修学旅行で韓国に行って日本の文化と韓国の文化が非常に関わりが深いということを感じてきました。そんな体験をしたぼく達の夢は首羅山で町を越えた国や文化を越えた交流をすることです。千年前の先人がされてきたように文化を通じて、皆で助け合うということを大切にするきっかけになればいいなと思っています。

### 先人たちの想いと、その遺跡を誇りとする今の久山町 (東儀秀樹さん)

日本と大陸とのあいだにあった、人と物との従来がそれぞれの場所で独特の文化を築いてきました。首羅山遺跡にもその長い年月の重みや意義を感じます。首羅山遺跡に思いをはせると、先人たちの想いと、その遺跡を誇りとする今の久山町の皆さんに親近感がわいてきます。

(国史跡 首羅山遺跡の現在と未来 パンフレットより)

## ■ 首羅山遺跡についてのアンケート

平成26年7月、久山町町民及び久山町を訪れた方を対象に、首羅山遺跡についてのアンケートを実施しました。大学生以上の大人284人、小学生から高校生までの子ども281人から回答をいただきました。

※本基本構想巻末の付編参照

### 約9割が「首羅山遺跡」について聞いたことがある

大人も子どもも、約9割が「首羅山遺跡」のことを聞いたことがあるようです。

小学生は総合学習で首羅山について学んでおり、大人と比べると、首羅山遺跡を「よく知っている」、名前や場所、歴史などの「基本的なことは知っている」のどちらの割合も高いという結果になりました。

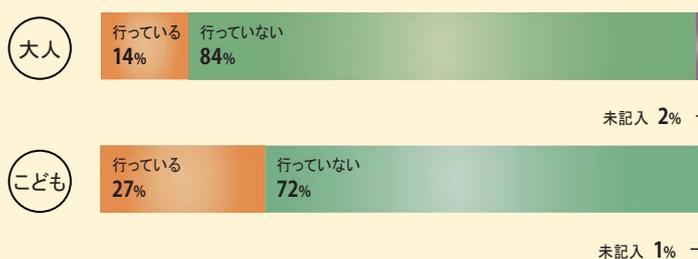
#### Q1 首羅山遺跡について



### 大人はボランティアガイド、子どもは総合学習

首羅山に関する活動を「行っている」人は、大人は約15%、子どもは約30%でした。その内容は、大人の場合は、歴史の勉強会やボランティアガイドへの参加、子どもの場合は、町内のすべての小学校で取り組んでいる首羅山遺跡の絵本制作が多くあげられていました。

#### Q2 首羅山に関する活動



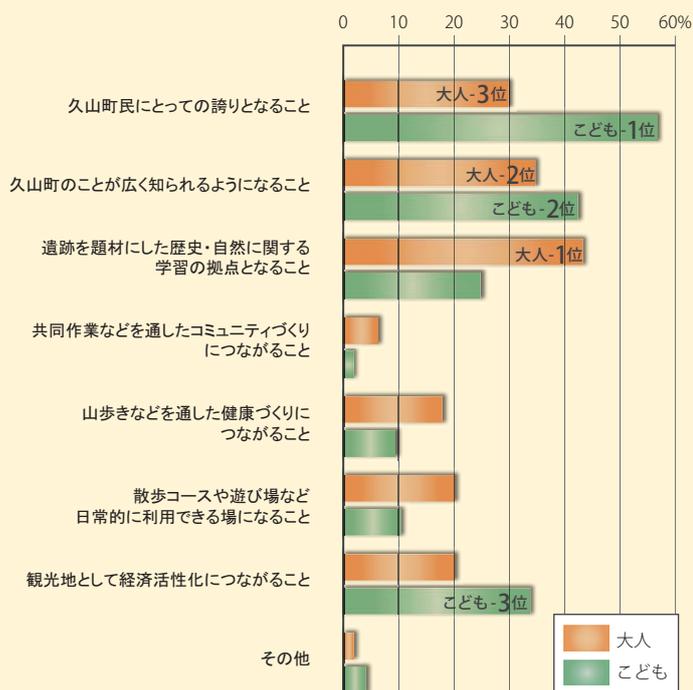
### 首羅山遺跡は、町民の誇りになって欲しい！

首羅山遺跡に期待することのベスト3は、大人は、1位が「遺跡を題材にした歴史・自然に関する学習の拠点となること」、2位が「久山町のことがひろく知られるようになること」、3位が「久山町民にとっての誇りとなること」でした。

一方、子どもたちのベスト3は、1位が「久山町民にとっての誇りとなること」、2位が「久山町のことがひろく知られるようになること」、3位が「観光地として経済活性化につながること」でした。

大人も子どもも、首羅山が久山町の誇りとなって欲しいという願いが強いようです。

#### Q3 首羅山遺跡に期待すること



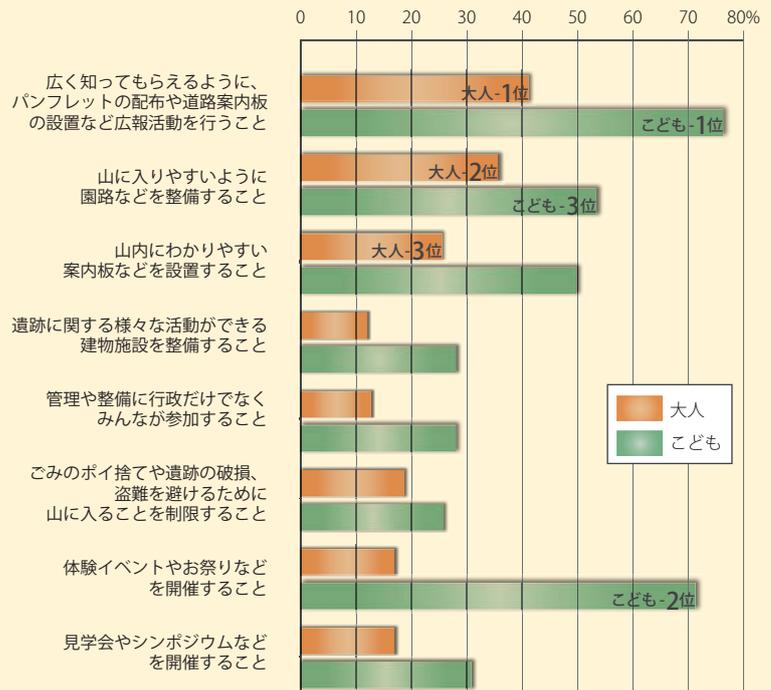
## 広く知ってもらうための 広報活動が最も必要

大人も、子どもも、最も多かったのは「広く知ってもらえるように、パンフレットの配布や道路案内板の設置などの広報活動を行うこと」を望む声でした。

その他には、「山に入りやすいように園路などを整備すること」、「山内にわかりやすい案内板などを設置すること」が多数を占めました。

子どもたちの場合は、「体験イベントやお祭りなどを開催すること」も7割を超えており、首羅山遺跡に親しむ機会を多く望んでいるようです。

### Q4 首羅山をいつまでも守り、活用していくために必要なこと



## 6割以上が、機会があれば 管理やイベントの企画・実施に 参加したい

大人も子どもも、首羅山遺跡の管理やイベントの企画・実施に「参加したい」、「機会があれば参加したい」と考える人の割合が6割を超えました。

子どもからは、「何か手伝いたい」、「みんなで作り上げていくためにも、ゴミ拾いなどの活動をしていきたい」という声もありました。

### Q5 管理やイベントの企画・実施に参加したいと思いますか



### みんなの声

- 首羅山遺跡のことをもっと知って、みんなに喜ばれる本をつくりたい (山田小、男子)
- 首羅山は久山町や国で大切にされてきた遺跡だから、私たちもその伝統を守り続けていきたい (久原小、女子)
- 首羅山のイベントがあればできるだけ参加したい (久山中、男子)
- またパネルディスカッションで東儀秀樹さんとコラボして、久山に首羅山遺跡を響かせたい (久山中、女子)

- 今ある自然を大切にして景観を損なわないようにして欲しい (40代、女性)
- 観光化するのは好ましいとは思いませんが、風化せず保存していく事は大切だと思う (40代、女性)
- 国指定史跡になったことの素晴らしさを、町の人々が十分に感じられるような啓発活動が大切だと思います (50代、女性)
- 首羅山遺跡を通して久山町が全国に知られるようになると嬉しいと思います (30代、女性)



画：山野芳朗氏



本谷地区墓壇調査時の状況

## 4

### 首羅山遺跡の現状と課題

## 4 首羅山遺跡の現状と課題

### 4-1 現状

#### (1) 遺構・遺物の状況

- 本谷・西谷・山頂・日吉（山王）地区を中心に、坊跡や基壇、礎石建物、墓地など寺院関連遺構が良好な状態で残っている
- 面積が広い。また、場所により遺跡の現状も様々である
- 遺構・遺物が露出している。薩摩塔、板碑などの貴重な遺物が現地に残っている
- イノシシやシカが生息し、遺物の掘り起こしや、樹木による遺構の破損が見られる
- 本谷地区、西谷地区の一部しか発掘されておらず、未解明な部分が多い

#### (2) 山の状況

- 昔からの久原、猪野、山田の各集落の方面からの入口がある
- けもの道程度ではあるが、麓から山頂までの道がある
- 土被りの浅い岩盤のため、地滑りや倒木が起こりやすい
- 風雨によってすぐに道が荒れてしまう
- 斜面が急なところや滑りやすいところがある
- 落石が起こりやすい
- 現在は私有地が多く、一般に立入ができない
- 電波塔跡地にまとまった造成地がある
- 電波塔跡地につながる管理用道路があるが、県道からの入口は見通しが悪く危険である
- スギ・ヒノキの植林が行われている（スギ・ヒノキ：約6割）
- エビネなどの貴重な植物が自生している

#### (3) 活用の状況

- 現地見学会などで一般公開をしている
- 平成25年度の現地見学会には約400名が訪れ、人数は増加傾向にある
- 町民や関係者による取り組みが盛んに行われている
- 国史跡指定記念イベントをきっかけに、町内の認知度は徐々に高まっている



イノシシが掘り起こし地表面に現れた遺物



根が侵食している日吉(山王)地区の石垣



本谷地区のサクラ、ツバキなどの花木



久山町に昔から自生しているエビネ



植林により若杉山を眺望できなくなった本谷地区



植林により見通しが効かない山中



大盛況の現地見学会



首羅山遺跡の存在感が感じられにくい山の神地区

## 4-2 課題

首羅山遺跡は長い間、中世山林寺院や修験道の行場、身近な里山として人が山に関わることで維持されてきました。現在は一般の立入を制限していますが、今後は昔のように人が山に入り、山の環境を維持、向上させていく必要があります。

### (1) 遺構・遺物の保存の課題

- 遺構・遺物の劣化、破損、盗難などの恐れがある
- 斜面崩壊による遺構・遺物の破損の恐れがある
- 薩摩塔や石製の祠など、現在も地元の方の信仰の対象となっており、移設が困難である
- 継続した調査・研究が必要である

### (2) 山の保全の課題

- 山内は暗く、道がわかりにくい。危険な箇所もある
- けもの道程度しかなく、重機が入れない
- 整備により遺跡の雰囲気や自然環境、景観に影響が及ぶ恐れがある
- 整備に膨大な時間と費用がかかる
- 山道の維持管理にも費用がかかる
- 植林により眺望が妨げられたり、元の植生が失われているため、山を楽しめなくなっている

### (3) 活用の課題

- 集落から遺跡までの道順、入口がわかりにくい
- アクセスしにくい
- より多くの人に周知するための情報発信が必要
- わかりやすい目標物がなく、周辺から遺跡の場所を認識しづらい